理学部長就任に当たって

久　城　育　夫

本年４月より理学部長の大役を仰せつかりましたが，私は理学部長などはおよそ自分に不相応な役職であると思っておりますので，まだ気持ちの切り換えも充分に出来ていない状態です。この一カ月間だけの経験ですが，学部長という役職は予想以上に義務が多くまた責任も重いものであることを認識し，これまでつつがなく務められた歴代の理学部長の方々に改めて敬意を表するとともに，私自身を返り見て甚だ心許なく思う次第です。しかし理学部長に就任した以上は，微力ではありますが出来るだけ理学部の為に尽くさねばならぬと思って居ります。皆様方の御協力，御助言をお願い申しあげます。

理学部は目下，理学院計画，建物の中央化，学科の改組・拡充，研究施設の新設・転換・拡充，および大型の新設備の設置などいくつもの大きな計画を抱えています。これらは全て理学部における今後の研究と教育の充実と発展を目指している点で共通した計画です。このように多くの計画があることは，理学部の多くの方々の研究・教育の充実と発展にたいする強い意志が存在することを表している一方，現在の状態に対して強い不満があることも示しています。これらの計画を全て希望通りの期間内に又計画通りに実現させることは極めて困難に思いますが，実現に向けて強い意志を持ち続け多くの努力を重ねていかなければならないと思っています。

理学部の研究・教育の充実と発展には上のような計画の実現化が重要ですが，別の観点からの改革も必要に感じます。理学部の私の知る殆どの教官の方々は，特に近年，研究に必要なまとまった時間が無いことを嘆いておられます。私が学生の頃は先生方はもっとずっと研究に専念出来ていたと思います。このように忙しくなった原因は定員削減や雑事の増加などにもよりますが，研究が大型化したり大組織化したことに伴う種々の業務の増加など，研究それ自体の変化にもよるのでしょう。いずれにせよこのような状態は理学部にとって極めて問題です。特に若いあるいは中堅の研究者にとって研究に充分な時間が無いことは致命的です。優れた研究はいくら充分な予算や設備があっても充分な時間が無いと生まれて来ないことは明らかです。理学部には研究に優れた教官が多数居られます。それらの方々が研究に時間が取れないということは，頭脳の浪費としか言えません。そのような浪費を防ぐ為に，理学部において何としても教官および職員の研究の為の時間的余裕をつくる努力をしなければなりません。無駄を無くす努力はこれまでも為されてきましたが，もっと思い切った方策を考えて実行する必要があります。全学に関することや研究・教育に直接関係する雑事など，教官職員の方々に責任のあることを遂行することは止むを得ぬとしても，理学部内で少しでも改善出来ることは徹底的に改善していく必要があります。その為にはこれまでの運営方針を変える必要もあるかも知れません。私も色々と方策

を考えますが，皆様方の卓抜な御意見を是非お寄せください。

理学部の研究活動にとって若い教官職員や大学院学生の自由な研究が非常に重要なことは言を俟ちません。理学部において若い人達が本当にのびのびと自由な研究を行なえるような環境がなくてはなりません。そのような環境をつくる上に，強固な講座制は問題があるという声を聞きます。講座制はそれが制定された当初，学問分野を確立する目的であったわけですが，既にその目的は達せられ，学問が多様化し更にそれが促進されつつある現在ではむしろ学問の発展の障害になる可能性があります。また講座制は助手などの若い人達の自由な研究活動にとって障害になることがあります。もちろん講座制にも利点はあり，実際に今すぐ根本的な改革を行なうことは困難でしょう。しかし運用によりその障害を最小限にする努力が必要に思われます。既に講座制を有名無実化させている教室もありますが，更に改善出来ることはして，理学部において全ての人達の研究が一層自由に行なえるようになることが望まれます。理学院が実現した場合には学部講座は大学院講座となりますが，今からでも出来る実質的な改善は試みていくことが必要であると思います。

大学院学生諸君の研究が重要であることを申しましたが，もちろんそれは柔軟な頭脳から生まれる独創的な発想とそれに基づく研究を期待しているわけです。天才は別として，そのような発想は努力なしには生まれるものでなく，それなりの勉強や研究の積み重ねが必要です。私の限られた経験ですが，日本の大学院学生はアメリカなどの大学院生に比べて定説に対する批判力が弱いように思えます。確立しているように見える学説や研究結果でも少しでも不合理な点を見つけたらそれを徹底的に究明していくことで新しい考えや研究が生まれてくることが多いものです。大学院生諸君は確立した体制に対して批判的で結構ですが，研究においてもその精神をおおいに発揮してもらいたいと思う次第です。また，若い時に出来るだけ本質的な問題や大きな問題に真っ向から取り組んでほしいと思います。そのような問題をやっているとすぐには成果が顕われ難いかもしれませんが，周囲も長い目でみることが必要でしょう。理学部からはこれまでにスケールの大きな世界的な学者が何人も輩出しています。今後もそのような学者が理学部から続々と育つことが切に望まれます。

理学部では各教室，施設，センターにおいて基礎科学の諸分野の研究・教育が活発に行なわれていますが，ごく限られた人達を除いて，お互いに他の分野の活動を知る機会が少ないように思います。以前にも書きましたが，他の分野の研究を知ることは方法論を学ぶ上でも，あるいは新しい境界領域を開拓する上でも有効です。せっかく理学部には各分野の優れた専門家が居られるのに互いにその能力を利用し合わないのはもったいないことです。今後，会議ではなく互いの学問を語り合う機会が増えることが望まれます。また，学部および大学院の学生が他の学科あるいは専攻の講義やゼミに出たり，異なる分野の学生同士で話合うことをもっと行ない易くする必要があると思います。若いうちに基礎を深めると同時に視野を広げることは，今後更に多様化する学問に対処するとともに新しい領域を開拓していくために必要と考えられるからです。

以上日頃思っていることを幾つか書きましたが，理学部が真に基礎科学の発展の為の自由な研究と教育の場であり得るように，皆様方と共に改善に努力して行きたいと思います。